

たのしみなきゆうしょく

東広島市立龍王小学校

第1学年 井林 暖真

たのしみなく、うしろく
ーねん、いはがしはるま
ぼくは、ーねんせいになっ
たのしみにして、いたたく
ありがとうございました。その
なかでもとくに、
たのしみにして、いたのは、
きゆう
しゅうです。ーしゅうか
んのなが
でも、よく、ようびの、
きゆう
うしろくが
だの、しみです。なぜか、
という、
こんだてが、ばんになっ
ているが
らです。ぼくは、ばんが、
だいすき
です。
ぼくは、セガ、つ、五か、
も、よく、ようび
の、きゆう
うしろく、きたの、
しみ、に、して
いました。なんと、この、
ひの、この、
こんだ

てが、せるふどっくだからです。
せるふどっくは、ほそながいはん
にますだあどとちいずとかさいと
けち^カっ^ッピ^キきはさんでいるおみせ
においてあるようなぱんだとおも
いました。おもいうかべただけで
にっごりしてしまいました。ほく
は、きょううしつにあるはいぜんひ
ょうをみたり、はいぜんしつのま
えのはいぜんひょうをみたりしま
した。
いよいよせるふどっくのひです。
ほくはうれしくてせんせいにな
っ^キょうはせるふどっくだよら
しいました。

「え、ほんとう。」

とせんせいがいこので、

「みてみて。」

といていていっしよはいぜんひよ

うをみました。ぼくのきょうしつ

のとがりは、はいぜんです。

い^ちぎ^ようち^ちう^でもはいぜんし

つのおとがきになりました。

きあ、き^ちう^しよくのいかんで

す。ぼくは、はんからはみだした

う^いんなおの^ちきをかぶりしたべ

ました。おいしくて、おいしくて

ばくばくとたべました。ぼくのま

わりをみるとう^いんなおをその

ままたへているひともしました。

ぼくは、ぜんぜんはさんだほうが
おいしいのになじとおもいました。
のこしていたさいごのひとくちは、
ゆっくりあじわってちよつとずつ
たべました。
しょうが、こののきょうしよく
は、ほんとうにおいしくてすきで
す。これからものさずだづてけ
んこうになりたいです。

指導者の言葉

この作品は、国語科「こんなことしたよ」の学習で、家族に知らせたいことを様々な体験の中から選び、様子が伝わるよう順序に気を付けて書いた作文です。

この学習では、書きたい内容をたくさん思い浮かべ、その中から特に伝えたいことを選び、さらにその時の様子や考えたこと、思ったことを詳しく書くことに留意して指導しました。

本児童は、小学校入学をととても楽しみにしていました。入学して3か月がたち、どの体験も初めてのことで楽しいことがたくさんありました。その中でも特に給食が1番の楽しみとなりました。作文の中では、給食のおいしさだけでなく、その献立を目の前にした時の心の様子がつぎつぎと言葉になってあふれ出しています。

大好きな給食への思いやおいしそうに食べている姿が伝わる作品になりました。